

e-dream-s 通信

No.41 発行：2004年1月11日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

目次

1. JAPANESE AS A GLOBAL LANGUAGE 辻荘一 p.2
2. 海外プログラム考：メコンは、東南アジアの原点 井川好二 p.5
3. やらまいか！ 中川房代 p.9
4. ベトナムへ行こう！<4> 12月の下見から 山田昌子 p.11
5. ちょっと福岡へ、そして、ちょっとソウルへ 塚本美紀 p.13
6. お知らせ p.15



ネパール・カトマンズ ダルバール広場（王宮広場）

© e-dream-s

旧市街の中心地であるダルバール広場。左の神はシヴァ神の化身のひとつ、恐怖の神カーラ・バイラヴ。刀を振り上げ生首をぶらさげているが、どこか愛らしい。新年のお祝いで多くの供物が捧げられていた。(1998.12...山田昌子)

JAPANESE AS A GLOBAL LANGUAGE

辻 莊一

先日井川顧問のオーストラリア人日本語教師のための授業から30分いただいて、@aglance オンデマンド日本写真サイトの説明とリクエストのお願いをさせていただいたのだが、これがなかなか難しい。

英語で話すか、日本語で話すかまず迷ったのだが、聴衆が日本語研修中ということを考えれば、日本語や日本文化のインフォーマントという役割も果たすべき、と考えて日本語で話すことにした。

校務の関係で途中からしか聞けなかったが、井川顧問の講義の様子から、先生方の日本語のレベルは様々で、なかにはかなり低そうな人もいたという印象を持った。従って分かりやすい日本語で話すべきだが、同時に不自然な日本語もよくない、しかし敬語は難しいはずだ、などと英語教師としてはいろいろ気を回してしまう。だいたい最初にお辞儀をしたほうがいいのだろうか、などと迷いながらお辞儀すると何だか、なれないながら日本人を真似てお辞儀をしているALTの様な気分になる。

以上のような様々な考えが頭の中で渦巻く中話し続けたのだが、日本語学習者にとって何が易しい表現が分からない。話すスピードもどれぐらいがいいのか分からない。じっと聞いてくれているオーストラリア人の先生方の顔を見ても分かっているのやら分かってないのやら。さらに、易しい日本語で話そうとすればするほど、自分の日本語が不自然になってくるような違和感が募る。

自分では、家族と話す時、同僚と打ち合わせをする時、生徒を叱る時、授業をする時、職員会議で発言する時、など様々な日本語のバリエーションを持っているつもりだ。しかしこの日本語バリエーションはすべて日本語のネイティブスピーカー相手のもので、日本語学習者に対する話し方はそんなに簡単にできるものではないようだ。

さらに考えれば、この違和感の原因は日本語学習者にネイティブスピーカーとして話すという状況だけではない。アジアツアーでは、コミュニケーション言語が英語ではなく日本語だったことも何回があったが、その時はこのような違和感はなかった。例えば韓国を再訪したときに日本語学校の生徒たちと日本語で話をしたことがあった。今回と同じように日本語学習者にネイティブスピーカーとして話をしたのだが、面白くこそ感じしたが、違和感はなかった。

どうもこれは、日本語を日本人同士ではなく日本語学習者に対して話すことへの不慣れに加えて、聴衆が英語のネイティブスピーカーだったことが影響しているようだ。さらに自分が英語教師なので、自分の話している日本語に対して過剰に敏感になっていたのかもしれない。箇条書きで書けば次のようになる。

国際コミュニケーションツールとしての日本語使用

話し手の経験不足

国際語として未成熟な日本語

日本語学習の困難点に対する無知

英語ネイティブスピーカーの聴衆・英語学習者（しかも英語教師）としての自分

教える立場と教わる立場の逆転

使用言語選択に迷い

自分の日本語に対する自意識過剰

以上のような要因が複雑に絡み合って、「違和感」となったものと思われる。

もっとも説明そのものは、私にいくら違和感があっても、私の日本語が少々わかりにくくても、用意したCD-ROMとプロジェクタを使って多くの画像を見せて視覚に訴える演出だったので、@aglanceの目的や意義はおおむね分かっていたようだ。

オンデマンド日本写真サイトが日本語や日本文化の学習のためのサイトである以上、国際語としての日本語 (JAPANESE AS A GLOBAL LANGUAGE) のことを考え、国際語としての日本語を使う体験を積み重ねる必要があるのは確かなようである。

オーストラリアの先生方からのリクエスト

大分類	中分類	小分類
学校	行事	運動会
学校	行事	卒業式
学校	行事	文化祭
学校	クラブ	アーチェリー
学校	クラブ	剣道
学校	クラブ	バスケットボール
学校	クラブ	バレーボール
学校	施設	給食
学校	施設	下駄箱
学校	施設	授業
学校	施設	食堂
学校	施設	トイレ
学校	施設	売店
学校	集会	
学校	小学校	
学校	休み時間	
交通	駅	乗客を押し込む人
交通	駅	
交通	自動車	デコトラ
交通	自動車	バス
交通	自動車	
交通	信号	
交通	駐車場	
交通	列車	
仕事	工場	自動車工場
伝統	遊び	
伝統	遊び	
伝統	おとぎ話	人形
伝統	おとぎ話	民芸
伝統	着物	
伝統	行事	お盆
伝統	行事	こどもの日
伝統	行事	七五三
伝統	行事	正月（初詣）
伝統	行事	正月（餅つき）
伝統	行事	節分
伝統	行事	七夕
伝統	行事	花火
伝統	行事	ひな祭り
伝統	芸能	歌舞伎
伝統	芸能	芸者・舞妓
伝統	芸能	能
伝統	芸能	文楽
伝統	工芸	畳職人
伝統	工芸	陶工
伝統	忍者	
伝統	武道	弓道
伝統	武道	相撲
伝統	祭り	鬼

大分類	中分類	小分類
日常生活	おもちゃ	ロボット
日常生活	温泉	露天風呂
日常生活	家族	
日常生活	看板	
日常生活	キャラクター	アンパンマン
日常生活	キャラクター	カッパ
日常生活	キャラクター	たぬき
日常生活	キャラクター	ドラえもん
日常生活	キャラクター	まねき猫
日常生活	行事	結婚式
日常生活	行事	成人式
日常生活	行事	葬式
日常生活	行事	卒業式
日常生活	芸能界	歌手
日常生活	芸能界	コンサート
日常生活	芸能界	時代劇
日常生活	自動車学校	
日常生活	住居	居間
日常生活	住居	ウォシュレット
日常生活	住居	玄関
日常生活	住居	こたつ
日常生活	住居	子供部屋
日常生活	住居	台所
日常生活	住居	ハンドドライヤー
日常生活	住居	布団
日常生活	住居	風呂
日常生活	塾	
日常生活	食事	
日常生活	食物	果物
日常生活	食物	天ぷら
日常生活	食物	麺類
日常生活	食物	野菜
日常生活	スポーツ	プロ野球
日常生活	銭湯	
日常生活	建物	教会
日常生活	地下鉄	ラッシュアワー
日常生活	ホテル	カプセルホテル
日常生活	街	
日常生活	店	コンビニ
日常生活	店	デパート（中と外
日常生活	店	値札
日常生活	店	パチンコ店
日常生活	店	不動産業者の店
日常生活	店	マクドナルド
日常生活	遊園地	
日常生活	旅館	
若者	服装	
東京	原宿	
自然	野生動物	
自然	山	

看板の写真は、カタカナや簡単な漢字の勉強になるとのことです。

海外プログラム考： メコンは、東南アジアの原点

井川 好二

「象耳魚¹、云うのが旨かった」
「象の耳、どすか？」
「そや、象の耳に似た形の淡水魚、メコン河で仰山取れる」
「それを、どんな風に料理しますのん？」
「唐揚げ。それからその象耳魚を皿の上に立てて持ってきよる」
「へえ、お皿の上で、立ってますのか？」
「そや。周りを野菜とかで支えてな」
「それで、お味は？」
「白身の魚や、身は淡泊。皮も鱗も、それに鱗もカラッとや」
「ええ、鱗も食べますんか？」
「そや、これがまたカリッとして、ええ食感」
「へえ」
「香草とか一緒に、ライスペーパー²に巻いて食べる」
「美味しそ」

¹ Ca tai tuong chien xu: テレビ番組などでとりあげられる機会が多いため、日本人の間で密かにブームになっているが、写真の「象耳魚の唐揚げ」この魚はメコン河に多く生息し、数千年に渡ってベトナム庶民に親しまれている伝統的な料理でもある。この魚は体高が高く、象の耳に似た印象を受けるためこう呼ばれている。日本の「カレイの唐揚げ」にた食感で、鱗やヒレなどの香ばしい風味が絶妙。 <http://www.nicetem.com/food/foods06.html>

Elephant Ear Fish is a speciality of the Mekong Delta. When I take a group to stay with Mr Mui and his family at their home, this dish is always a highlight. We take a boat to Mr Mui's house, which is built on stilts on a tiny island in a backwater of the mighty Mekong. His garden contains a huge variety of fruit trees but his pride and joy are the vast fish tanks where he keeps the Elephant Ear fish. The fish are the size of a large platter. They are gutted and fried whole then served standing propped up on a plate between a couple of chopsticks. To eat them you first take a piece of rice paper and dampen it, break off some fish, add cucumber slices, mint and basil leaves and some rice noodles then roll it all up and dip it in a spicy chilli sauce. Finger food at its best. <http://www.newsviews.info/travel08.html>

² ライス・ペーパー (rice paper) [外来語年鑑 2003 年] ベトナム料理に使う米を材料とした春巻の皮のような食材。 [現代用語の基礎知識 2003]



Photo by courtesy of M. Tsukamoto.

海外に出ていなくないと、日本のしがらみの糸に絡みとられて、客観的にものを見ることができないと、己れの非力と民族の地理的歴史的宿命を緋い交ぜにして、アメリカの雑誌でのインタビューで嘆いてみせたのは、村上春樹³である。その物言いが、些かナイーブにすぎるとは云いながら、同感する部分が大いなのは、同世代だからと云うだけではあるまい。世界の田舎者は、定期的に外の空気を吸う必要があるのである。

「センス、ほんまに、海外お好きどすね」

「ほっといてくれ」

「あら、そないに、気い悪せんでも。褒めてますのに」

「そうかな？褒められてるようには、聞こえんかったけどな？」

「人間、僻んだらあきまへん工」

「そやなあ、素直が一番か」

客観的に世界を見るために、毎年 e-dream-s/ACROSS の海外プログラムを企画・実施している、と云っても過言ではないだろう。そして、それが、なにより、自分自身の

³作家。1949年1月12日生まれ。芦屋市出身。早大文学部演劇科卒。卒業後、ジャズ喫茶の経営を経て、79年に『風の歌を聴け』で群像新人賞を受賞。以後『1973年のピンボール』『羊をめぐる冒険』で人気作家になった。87年の書き下ろし『ノルウェイの森』は純文学では異例の300万部を超えるベストセラーになり、圧倒的な存在感を示した。従来の湿っぽく汗臭い日本の小説と違い、作品の1ページ目から都会的でクールなセンスが漂い、その後登場する文学のほとんどの作品に大きな影響をあたえた。ほかに『アンダーグラウンド』『シドニー！』『村上ラヂオ』、柴田元幸との共著『翻訳夜話』など。[現代用語の基

Professional Development なのだと思っている。

息詰まるような同一性の中、その「言わずもがな」の安逸に浸って、日頃はずいぶん楽な思いをしているはずなのだが、年に何回かはその息詰まる安逸を離れ、隔靴搔痒⁴の世界へ身を置いて、異文化コミュニケーションの醍醐味⁵を玩味するとともに、国際英語 / 日本語の困難さを体験し、自己のアイデンティティを再確認すること、そしてそう云ったプログラムを企画することが、私の職業的ハイジーン (hygiene⁶)にとって、必要不可欠だと考えている。

「お待っとうさん」と運ばれてきたのは、牡蠣の田楽と、聖護院大根のたいたん。田楽味噌の香りが、牡蠣の滋味とよくあい、聖護院の程よい甘みに、辛口の酒が進む。今夜は、姫路の酒、「八重垣・無」⁷が旨い。

そんなわけで、この10年あまり、毎年3回は海外へでかける生活をしている。3回は、決して多いとは云えないし、期間も短いのだが、仕事のスケジュールを考えれば、この辺りが精いっぱい。もちろん、お金もかかるが、自分への投資と考えれば惜しくはない。いろんな人に会えるし、面白いものがたくさん見つかる。旨いものもいっぱい食べたり飲んだり、結構、消化不良だったりするが、少し時間をおけば、大丈夫。ちゃんと、吸収できる。

去年(2003年)も、3回出かけた。まず、3月のアメリカ東海岸、8月の韓国。最後は、12月のベトナムである。全て楽しい旅だったが、それぞれに違った面白さがあった。コミュニケーションの面では、英語がフルに通じるアメリカが一番楽。昔住んでいた東海岸は、土地勘もあって、レンタカーで走り回っていても、景色を楽しむ余裕がある。都会の桜が綺麗な春であった。

韓国へも何回目かの訪問であった。しかし、今回は、韓国人英語教師と高原のホテルで缶詰になって、テキスト執筆を共同作業で行った。この旅でやっと、韓国、韓国人が身近に感じられるようになった。アジアの国々の中では、韓国が日本に、例外的に近い国だと分かった。

「それで、ベトナムは、面白かったですか」

「うん。酒はうまいし、ねえちゃんはきれい」

礎知識 2002年版]

⁴かっか そうよう【隔靴搔痒】[詩話総亀]靴の外部から足のかゆい所をかくように、はがゆく、もどかしいことをいう。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

⁵深い味わい。ほんとうのおもしろさ。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

⁶衛生学; 衛生, 清潔[株式会社研究社 リーダーズ+プラス V2]

⁷ヤエガキ酒造さんは、寛文6年(1666)兵庫県姫路市にて創業。「手間も時間もかかる丹念な造りで良い酒を造ること」が基本姿勢です。山廃仕込みにも積極的に取り組み、麴米にはほぼ全て山田錦を用い、今や数少なくなった一升盛によるフタコウジ法を全品に採用しています。ほどよい酸味とコクが印象的なお酒です。

<http://www.rakuten.co.jp/e-kanoya/423878/469576/> より。

「また、センス、まじめに聞いてますのに」
「そやなあ、ベトナムは面白かったけど、貧しかったなあ」
「ちょっと、イメージちがいますなあ」
「そやなあ、なんか、癒し系で、豊かなイメージあるねんけど」
「ベトナムって、優しい感じですよん」
「けど、貧しい国や」
「それって、人は豊かって意味ですか？」
「そうとも云える」

いつも考えるのは、テーマである。企画段階で考えているテーマと、下見で現地に行ってから思い付いたことは、必ずしも一致しない。しかし、どちらにしても、その旅のテーマが大切。いわば、メッセージと云うべきものである。

3月の「アメリカ東海岸」のテーマは、Charter Schoolであった。教育上の新しい試みの検証。授業見学、日本紹介授業、インタビュー、ホームステイ、と多彩なスケジュールをこなし、ブロードウェイではミュージカルも鑑賞した。北風が頬に冷たいイースト・コーストの春は、桜の濃いピンクが印象的だった。

8月の韓国は、高原のホテルで「缶詰」体験であった。韓国人教師とのコラボレーションのため、お互いに逃げられない状況をつくり、本音で向きあいたかった。3泊4日は、十分とは云えないが、本音で理解する切っ掛けは作れたと思う。今年、「缶詰 Part 2」をやる。

今年の8月に行くツアーのための下見であった12月のベトナムは、未だ形が見えない。単に、食事が美味しいとか、国が貧しいとか、では、テーマにならない。人は、特に教師は、体験を語りたがるものであり、その語りにテーマを設定するのが、企画の仕事である。

「象耳魚ですか？」
「うん」
「それ、食べてみたいですね」
「そうか？」
「なんか、メコン河のエッセンスみたい」
「うん、ひょっとすると、その辺にテーマが、あるのかも？」
「東南アジアの原点？」(Sunday, January 11, 2004)

やらまいか！

中川房代

年末年始に帰省した。このところ、長期休暇に海外に出掛けることが多かったので久しぶりである。場所は、静岡県磐田市⁸。

生まれてから高校時代まで育った場所とは言いながら、大学から関西に出てきて、既に関西在住の方が長くなった。両親と暮らした期間と、夫と過ごしてきた日々とがほぼ同じ長さになった。帰る度に変わっていく故郷は、私にとっては、正直、寧ろ異文化に近い。

それでも、今だに私の話す言葉は大阪弁にはなりきれず、細かなニュアンスも分からない時がある。本当の意味では、一生大阪人にはなれない気がする。(まあそんなことはどうでもいいが。)実家に帰って、両親や弟夫婦の話す言葉を聞くと、懐かしさと共に自分の原点を見る気がするのも嘘ではない。

感傷に浸る訳ではないが、今日は少しお国自慢を1つ。

静岡県は昔、遠江(とおとうみ)の国、駿河(するが)の国、伊豆(いず)の国に分かれており、浜松市や磐田市を含む遠州灘に面している県西部地方は、「遠州」とも呼ばれている。

「遠州」及び「三河」(隣の愛知県の東部地方)は、起業家が育ちやすい地域と言われており、世界的に有名な企業、ユニークなベンチャー企業も多い。

浜松は起業家が育ちやすい都市だといわれる。ヤマハ、本田技研工業、スズキ、浜松ホトニクスといった現在の浜松を代表する大企業も、もともとはベンチャー企業だった。時代の変化を真っ先に感じ取り、みずから恃みとする技術をベースに先端的な製品を世に問い、結果として社会に大きな貢献を果たしたわけだ。⁹

その理由の1つとして上げられるのが、遠州人の気質を表す言葉である「やらまいか精神¹⁰」である。

遠州地方には特有の「やらまいか精神」がある。「やらまいか」とは「さあ、やろうぜ！」という意味で、ことにあたってすぐに立ち上がり、付和雷同を潔しとしない遠州人の気質を象徴的に表す言葉である。この「やらまいか精神」が、起業精神の源となっているのは想像にかたくない。¹¹

⁸ 最近、サッカーJリーグ「ジュビロ磐田」のホームタウンとして有名。

「磐田市ホームページ」<http://www.city.iwata.shizuoka.jp/>

⁹ 「ハイテク浜松'99を振り返って」<http://www.hamamatsu-cci.or.jp/hitech/press/matome.htm> より

¹⁰ 遠州地方の方言をもっと知りたい方はこちら

「デジカメ持ちある記～特集7.看板に見る遠州弁」

<http://www2.odn.ne.jp/mochiaruki/hmms/t-kanban/ensyuben/ensyuben.htm>

「おいしい生椎茸のグルメマッシュ やらまいか浜松」

<http://www.gurume-massyu.com/jyouhou/yaramaika.html>

トップ企業の数々が静岡で生まれた理由の一つに、「失敗を恐れずチャレンジしよう」を意味する「やрмаいか精神」があります。ヤマハ創業者である山葉寅楠氏や、本田宗一郎氏など、ユニークな技術とアイデアをもとに企業を起こし成長させたケースは珍しくありません。こうした起業家たちの精神が受け継がれ、世界のトップビジネスとして結実しているのです。「やрмаいか精神」は、現在でも静岡に息づき、急成長企業を生み出しています。¹²

蛇足ながら、私の弟は上の「浜松ホトニクス¹³」という企業に勤務している。「浜松ホトニクス」は余り馴染みのない企業名かもしれないが、医療機器の研究開発、特に最近注目されている5ミリ程度の癌も発見できる機器であるPET¹⁴の製造や、ニュートリノの研究で2002年のノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊さん（東京大学名誉教授）の「カミオカンデ¹⁵」の研究施設の建設に協力したのは、この企業の社長の英断であった、という。

そんなこんなで、この「やрмаいか精神」はなかなかのものである、と改めて思う。遠州出身の私に起業家の素質があるかどうかは分からないが、“新しもの好き”だったり、好奇心が旺盛なところ、とりあえずやってみてもいいかな、と思えるところは、私の身体にもその精神が受け継がれていると言えるのではないかと、実は、ちょっぴり自負している。

新しい年2004年が始まった。今年は、この“やрмаいか精神”でいこうよ！”とと思っている私である。

¹¹ 「ハイテク浜松'99を振り返って」

<http://www.hamamatsu-cci.or.jp/hitech/press/matome.htm> より

¹² 「静岡県ホームページ 静岡県企業立地ガイド」

<http://www.pref.shizuoka.jp/syokou/syo-119/investment/key4.html> より

¹³ 「浜松ホトニクス株式会社ホームページ」 <http://www.hpk.co.jp/hpkj.htm>

¹⁴ PETとは「Positron Emission Tomography (ポジトロン・エミッション・トモグラフィー)」の頭文字をとったもので、「陽電子放出断層撮像」という意味です。体内にポジトロン(陽電子)を含んだ薬剤を投与し、体内での反応を画像化する装置であるため、このように呼ばれています。PETと同じように体内を断層撮影する装置としては、「X線CT」や「MRI(磁気共鳴画像診断装置)」などがありますが、これらは、病変部の形や位置などの形態情報を得るため、1cm程度のがんの発見が限界で、それ以下の極早期のがんの発見は非常に困難です。これに対して、PETは体内の組織の活発に働いている部分を画像化できるため、5mm程度の極早期のがんでも発見することが可能であり、さらに悪性、良性の判断も可能です。PETにはがんの早期発見に大きく貢献する多くのメリットがあります。

「浜松ホトニクス株式会社ホームページ <トピックス>がんをとらえる」

<http://www.hpk.co.jp/Jpn/topics/pet/petwhat.htm> より

¹⁵ 「毎日新聞 ことば」http://www.mainichi.co.jp/news/kotoba/ka/20021009_01.htmlより

ベトナムへ行こう！ < 4 >

-- 12月の下見から --

理事 山田昌子

12月の下見ツアーの後、ECAP 実行委員会は "ECAP 2004 Vietnam" 中止を提案し、1月の理事会で了承された。2回も下見したにもかかわらず、残念ながら、英語の話せる協力的な教師に巡り会うことができなかったため。コンタクトパーソン探しから彼らとの連携までそれまでの取組みについての私自身の反省はあるものの、やはりこれがベトナムの現状だと思う。ハノイで私たちが出会った教師は、生徒の方が英語がわかりやすかったし、ホーチミンでは何度も依頼をしたにもかかわらず、市の教育課を再訪問するだけで精一杯だった。私は、8月からメールや国際電話、ファックスで何度も何度も連絡をとろうとしたのを思い出すと、気がめいって、排気ガスがひどく喉を痛め体調をくずしたせいもあり、私は少々ネガティブになってしまった。が、そんな私がベトナム嫌いにならずに帰国できたのは、ベトナム料理が美味しかったのと共に、ベトナムの人々の笑顔のお陰だと思う。ベトナムでは、メコンデルタでも都市部でも学校でも、観光客慣れせず、素朴で人のいい人が多かった。デジタルカメラを向けても、いつも笑顔で応じてくれたし、言葉が通じなくても、私たちとなんとかコミュニケーションしようと努力してくれた。

中でも、10月号の e-dream-s 通信「ベトナムへ行こう！ < 2 >」でご紹介した、ハノイのお爺ちゃん(写真右)との再会は、印象的だった。8月の下見の際、小関さんと私は、朝食のフォーを食べた後、コーヒーショップでバンブー煙草を味わっているお爺ちゃんの姿に魅せられ、写真を撮らせていただいた。お互い言葉はわからなかったが、手振り身振り漢字での筆談でなんとか通じた。帰国後、写真を送付したところ、お爺ちゃんの孫娘との e-メール交換が始まった。



孫娘は、Minh Trang(ミーチャン)と言い、正直言って私は今回ベトナムに行くまでその名前の読み方さえ知らなかった。現在は、セカンダリースクールの英語教師を目指し、教員養成学校で勉強中の1年生。会ったことはないが、なんとなく親しみを感じていた。



日本を立つ前日22日、私はお爺ちゃんとミーチャンに会いに行きたいという旨のメールを出した。最終日30日、なんとか時間を作って、小関さんと私はタクシーに乗った。ミーチャンがいなければコミュニケーションが出来ないので電話をするのは憚られた。あのコーヒーショップがお爺ちゃんの家、兎に角行ってみよう。8月に宿泊した小さいホテルの前を通ると、フロントの女の子(写真左)が私たちを覚えていて、笑顔で迎えてくれた。ロビーの彫刻の綺麗な椅子に座らせ、緑茶を出し歓待してくれた。お爺ちゃんの住所を見せたところ、彼女は頼まなくてもすぐに電話をしてくれた。

幸いお爺ちゃんは家にいて、私たちに会いにホテルまで来てくれると言う。ミーチャンと電話で話げできた。学校に行かなければいけないから30分くらいしか話せないけど、会うのを楽しみにしていると。

とりあえず、私たちはお爺ちゃんのうちに行くからと伝え、コーヒーショップに急いだ。が、そこにはお爺ちゃんの姿も、若い女性の姿もなかった。コーヒーショップのオーナーであるおじさんだけは覚えていたが、お互い言葉は通じなかった。私は仕方なく「ミーチャン」「ミーチャン」を繰り返したが、ミーチャンは現れなかった。私たちはてっきりそこがバンブー煙草のお爺ちゃんとミーチャンの自宅だと思っていたが、どうも違っていったようだ。万事休す。小関さんと私は、ホテルに戻り再度フロントの女の子に電話をしてもらおうと、席をたった。通りを50メートル

程行ったところで、コーヒーショップのおじさんが追いかけてきた。全く言葉は通じないけれど、おじさんのにこやかな表情からミーチャンの家に案内してあげると言っているような気がした。私たちはついていくことにした。



ミーチャンの家は、通りに面した電気部品を売る小さな店(写真左)の中を通り抜けた、店の裏にあった。4階建てのチャイニーズ風の家だった。チャイニーズ風というのは、以前台湾で訪れたり、ホームステイした時の家の造りと似ているので、そう書いた。各階には1、2室しかなく、横に広い建物ではなく上に向かって延びている建物だった。通りから見ると、それ程には見えないのだが、中に入ると、なかなかモダンな室内だった。

黄色の上下の服を着た、小柄な可愛い女の子がにこやかな笑顔で飛び出して来た。ミーチャン(写真右)だった。バンブー煙草のお爺ちゃんは、穏やかな微笑みをうかべ、私たちを出迎えてくれた。青い背広を着て、髪を綺麗にとかして、待っていてくれた。まるで遠いところに住んでいる孫が2人訪問したかのように、とてもうれしそうだった。「さあお座り下さい」と勧められて部屋を見渡すと、彫刻を施した濃い茶色の椅子やテーブル、食器棚の間に、ソニーの大きなテレビとスピーカー2つがあった。大きな筆で「基肇徳福」と書いた額がかけられていた。お爺ちゃんの手による書だそうだ。いい字だねとほめると、次回私たちが訪れたら、お爺ちゃんの手による書を土産にすると何度も言われた。



私のメールを読んでからお爺ちゃんとミーチャンは、私たちがいつ来るかずっと待っていたそうだ。ミーチャンは、家中の部屋をひとつひとつ案内してくれ、留守の家族を紹介してくれた。お爺ちゃんとミーチャンは、何度も夕食を一緒にしないかと誘ってくれた。



ミーチャンの英語は決して上手いわけではないけれど、一生懸命話しているのが伝わってきた。ミーチャンは私たちの質問に答え、学校のことやボーイフレンドのこと、将来の希望など自分がしゃべりたい事を話すのに忙しい。その合間にお爺ちゃんとコーヒーショップのおじさんに心遣い、笑顔を絶やさず通訳してくれる。私たちを迎えてうれしいと全身で表現しているようだった。私たちの出会いはほんの偶然で、今回の訪問はほんの1時間程のものだったが、このような再会になるなんて、予想だにしていなかった。ベトナムのあったかい人々に出会えたこの旅のお陰で、ベトナムも捨てたもんじゃないと私は今思っている。

今夏、アジアツアーとしてベトナムへ行くが、私は実行委員として異文化体験のお手伝いをしたいと思う。ベトナムの人々の笑顔を見るのが楽しみ。皆さん、是非ご一緒しましょう！

ちょっと福岡へ、そして、ちょっとソウルへ

塚本美紀

仕事を終え、夜の高速道路を飛ばして福岡空港の国際線の到着ロビーに行った。ソウルからの便はすでに到着していて、お土産をたくさん抱えた人たちがぱらぱらと出てくる中、たくさんの荷物をカートに載せた Young Hee の姿が見えた。「久しぶり！」と言って hug した後、私の車へと向かう。車の中に乗り込んでの Young Hee の第一声は、「外国に来たっていうより、ちょっと友達の家遊びに来た感じ！」飛行機で1時間25分、「外国」ということを意識しにくい距離ともいえる。

Young Hee の来日は、私の勤務する福岡県立ひびき高等学校で授業をしていただくことと、日韓相互理解教育についての研修会に参加していただくためである。昨年の夏、作成した日韓相互理解教材「海峡にかける虹（仮題）」を使った英語の授業と、英語を使って韓国料理を習うというオーラル・コミュニケーションⅠの授業を、Young Hee と一緒に行った。ここでは、それらの授業についてと、Young Hee を迎えた本校の様子をご報告したい。

私の勤務校は、単位制の高等学校で、学年はなく、授業は90分である。卒業するためには英語 またはオーラル・コミュニケーションⅠの授業を履修することが必要で、多くの生徒は入学年度にそのどちらかを履修する。生徒の学力の幅が広いので、英語には「基礎」と「発展」の講座が用意されている。今回、授業を行ったのは「発展」のクラスである。取り扱った教材は「Food」である。30名弱の生徒を4つの班に分け、それぞれにテキストに関する異なるトピックを与えた。生徒は班毎に、テキストを読んだり、Young Hee や私に質問したりしながら与えられたトピックについての発表の準備をする。生徒は、たどたどしい英語を駆使して、キムチ専用の冷蔵庫はどんな形なのかとか、テキストに登場する韓国人高校生の名前は男の子の名前なのか、女の子の名前なのかなどと、Young Hee に質問していた。各班が発表する際には、他の生徒は、あらかじめ渡されたワークシートの質問の答えを記入しないとイケないので、必死に聞いていた。生徒は大勢の前で話すことに慣れていないので、聞き取りにくく、そのような場合には、聴衆の生徒が質問していた。



オーラル・コミュニケーションの授業では、Young Hee に韓国料理「チャプチェ」を教えてもらった。春雨や牛肉や野菜を混ぜて作る、代表的な韓国料理の一つだそう。家族が集まるときに作ることが多いそうだ。普段はあまり英語を話したがない生徒も、きちんと確かめないとおいしいチャプチェができないと、身振り手振りを駆使して、なんとか英語でコミュニケーションをとっていた。いつものように遅刻してやってきたS君は、授業の後、「あの人、日本語できんの？日本人やけど、英

語の授業やけ英語しゃべりよるんかと思った！」と、日本人と同じような顔なのに日本語が話せない Young Hee のことを不思議そうに見ていた。

英語の「基礎」のクラスでは、ちょうど不定詞の練習問題の答えあわせをすることになっていて、「日本語はできないけど、同じ英語の教師なのだから、何か手伝えるよね。」と言って Young Hee がアシスタントの形で授業に入ってくれた。私の説明を聞かず、隣同士おしゃべりしている生徒のところに行って、頭をなでながら、「ちゃんと塚本先生のお話を聞かなきゃだめでしょ。」と言ったり、練習問題を解かずにぼんやりしている生徒のところに行って、「この例文を見れば、簡単よ。」と言ったりして、随分、生徒に「指導」していただいた。いつもはやんちゃな生徒も、Young Hee のパワーに圧倒されたようで、「俺、あのおばちゃんに気に入られたみたい。」などと言って、機嫌よく授業に参加していた。授業の後で、Young Hee が、「いつの間にか、自分の生徒にするみたいに生徒に話しかけていて、あ、これは私の生徒じゃないんだ、って後で気づいたりして、何だか変な感じだった！」と言っていた。生徒を見たら、話したくなるのは、教師の習い性なのだろう。

Young Hee に校内を案内しているとき、国語科の S 先生が授業をされていたので、少し参観させていただいた。黒板にたくさん漢字が書いてあるのを見て、Young Hee が「これは、中国語の授業ですか。」と言った。それに対して、国語の授業であることを S 先生は英語で説明してくれた。その様子を見ていた生徒は、「S 先生、英語できるん?!」と驚いていた。職員室では、いろんな先生が、片言の英語で、「冬のソナタ」のことを尋ねたり、日本の生徒の印象を尋ねたりしていた。私の隣の席の理科の I 先生は、「私たちと同じ顔なのに、日本語が通じないなんて、変な感じ!」と感想を述べていた。Young Hee と少し仲良くなった若手数学教師の Y 先生は、Young Hee に「私にちゃんと英語でメールを書くように!」と別れ際に言われ、英語をきちんと勉強しなければ、と言っていた。

今回の Young Hee の来日で、一番に感じたことは「本物」の迫力である。韓国という国が隣にあって、日本人と同じような容姿をしているが韓国語を話して生活していることなど、誰でも知っていることだが、直にそのことを経験して、小さな衝撃を受けている生徒や教師を何人も見た。また、韓国人と日本人が話す際、お互いの言語を知らなければ、英語がコミュニケーションの手段になりうるということについても、目の前に「本物」があれば、何の説明もなくとも、明らかなことである。たった 2 日間の Young Hee のひびき高校への滞在は、生徒にも職員にも大きなインパクトを与えてくれたようだ。

e-dream-s は、今年も韓国で ECAP を実施する。ECAP 2004 Korea(2)実行委員会は、来月、その下見に行く予定である。「ちょっとソウルへ」、いろんなことを体験しに行くのである。

Teaching Plan

1. Self introduction from Ms. Kwon. (5 min.)
2. Questions about Ms. Kwon and Korea from the students. (10 min.)
3. Have the students fill in the blanks on the textbook with listening to a teacher. (2 min.)
4. Check the answers. (2 min.)
5. Divide the class into 4 groups. (1 min.)
6. Give each group one topic as followings. Give each group a handout which will help the students find the answers. (1 min.)
 - a. Which names are for boys and which names are for girls?
 - b. What is Japanese-style meal?
 - c. What is Korean traditional food?
 - d. What is fusion food?
7. Have each group find the answers and prepare for the presentation. They can ask the teachers. (20 min.)
8. Have each group report their answers in front of the class. Give the students a handout for the memo. The audience has to fill in the blanks of the handout while listening to the presentations. (15 min.)
9. Check the answers of the handout. (20 min.)
10. Have the students do the review exercise. Give the students a handout which has names of food, pictures, and explanations about food. Have the students match the names of food, the pictures and the explanations about food. (10 min.)
11. Check the answers. (4 min.)

お知らせ

< e-dream-s第15回理事会 報告 >

- 1 . 開催日時 : 2004年1月4日 (日) 19:00 ~ 20:30
 - 2 . 開催場所 : 神戸ベイシェラトンホテル&タワーズ
(神戸市東灘区向洋町中 2 - 1 3)
 - 3 . 理事総数 1 3 名中、出席理事 1 1 名
 - 4 . 議案と議決結果
- (1) 議案 : 「 ECAP 2004 」 の実施について
(a) 「 ECAP 2004 ベトナム 」 の実施を中止し、2004年については韓国のみで実

施する

(b)「ECAP コラボレーション開催国・地域（10年間の予定）」の再検討を行う

議案(a)・(b)共に全員の賛成により、可決

(2) 報告事項：

- 1) @aglance 事業の中間報告
(含：使用例についての報告・支出報告)

- 2) 収支決算の中間報告
(含：ワインプロジェクト中間報告)

編集後記

小倉城の近くに、お花のしつらえがちょっとパリっぽくて気に入っている花屋がある。たった2本の花を買うのにも、生ける花器や部屋の様子、私の好みを聞いて、真剣に選んでくれるのも気に入っている理由の一つだ。週末に花でも生けようと、その花屋に行くと、今年一番の花が市場から届き、春の花でいっぱいだった。今が一番寒い季節とはいえ、春ももうすぐそこに来ているのですよね！ (塚本美紀)